

公安調査庁

Public Security Intelligence Agency

情報の力で国民を守る。



ACCESS

- ・東京メトロ「霞ヶ関」駅（丸ノ内線・日比谷線・千代田線）A1またはB1a出口、徒歩5分
- ・東京メトロ「日比谷」駅（日比谷線・千代田線）および都営三田線「日比谷」駅A10出口、徒歩5分
- ・東京メトロ有楽町線「桜田門」駅5番出口、徒歩3分

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-1-1 中央合同庁舎6号館
TEL 03-3592-5711（代表）

 公安調査庁 採用公式 X
(旧 Twitter)
https://x.com/PSIA_recruit



公安調査庁 公式ウェブサイト
<https://www.moj.go.jp/psia/>

公安調査庁 検索



情報の力で生活の安全・安心を根本から支える。

いままでに情報というものがどのように役立つか考えたことがありますか。

つねひごろから私たちは、情報を活用しています。

しかし、情報という言葉から日常生活の安全・安心を連想される方は多くはないと思います。

よの中の安全・安心と、情報は密接に関わっています。公共の安全を維持するためには、より質の高い情報をより多く活用することが重要です。

ニッポンにおいて、「良い1日」を皆さんに当たり前に不安なく毎日過ごしていただく。そのために、日々、情報の力を使って公共の安全を確保する。それこそが公安調査庁のあるべき姿だと考えています。

はっきり言います。より質の高い情報をより多く集めることは簡単ではありません。特定の個人や組織のみが持つ情報は、収集することそのものが困難です。インターネット上に氾濫している情報は、収集することはたやすくとも、その情報の真偽を見極めることは容易ではありません。

たからのように価値のある情報を最大限活用するためには、高い情報収集能力と分析能力が必要不可欠です。

らかな道は選ばない。我々公安調査庁は、情報のプロフェッショナルとして、難しい局面とも向き合いながら日々の業務に従事しています。

こうした情報の収集・分析は、その方法に正解が一つだけというわけではなく、多様な人間が多様な観点から正解を導き出すことができる、チャレンジングでやりがいのある仕事です。

うごき続ける国際情勢は未だ不安定で、情報の力が求められています。皆さんも、情報のプロとして我々とともに全力を尽くしてみませんか。

CONTENTS

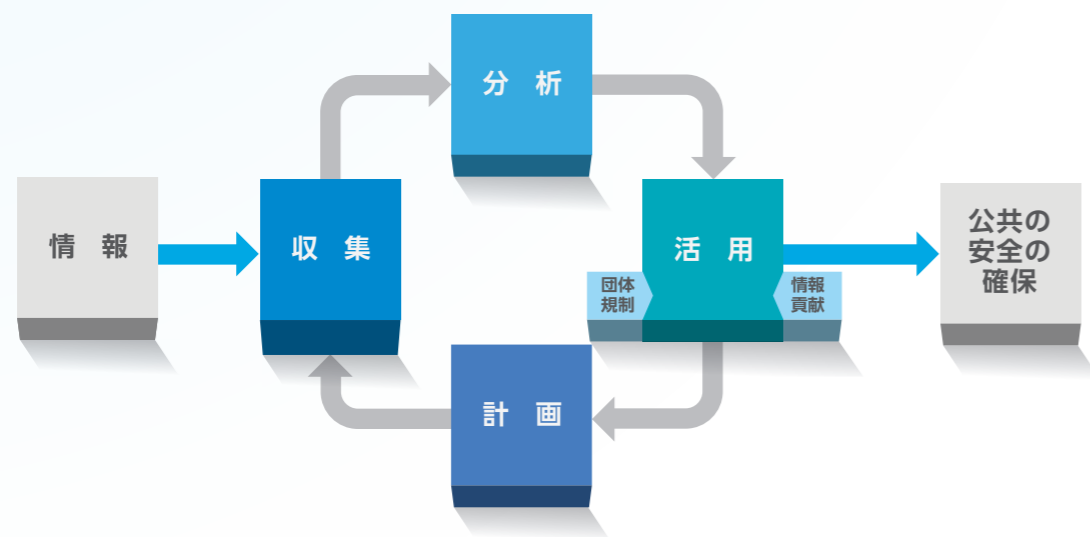
公安調査庁の概要	4	活躍の場	17
使命	6	ワークライフバランス	20
組織・拠点	8	座談会	22
公安調査官の業務	10	研修・採用情報	25
職員の日	12	Q&A	26
キャリアパス及びOBからのメッセージ	14		

公安調査庁の概要

確かな情報で日本の安全を支える。

公安調査庁は、破壊活動防止法及び無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律(団体規制法)に基づいて、暴力主義的破壊活動を行う危険性のある団体についての調査、規制請求等を行い、我が国の公共の安全の確保を図ることを任務としています。

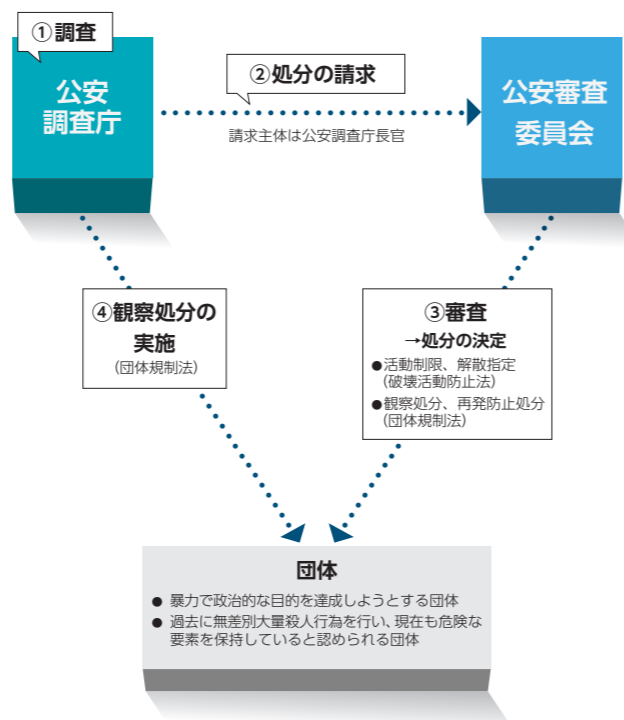
また、経済安全保障やサイバー空間上の脅威、国際テロや北朝鮮・中国・ロシア等の周辺国等の情勢、国内諸団体の動向など、国内外の諸動向に関する情報を収集・分析し、得られた情報(インテリジェンス)を官邸を含む政府関係機関等に適時・適切に提供しています。



団体規制

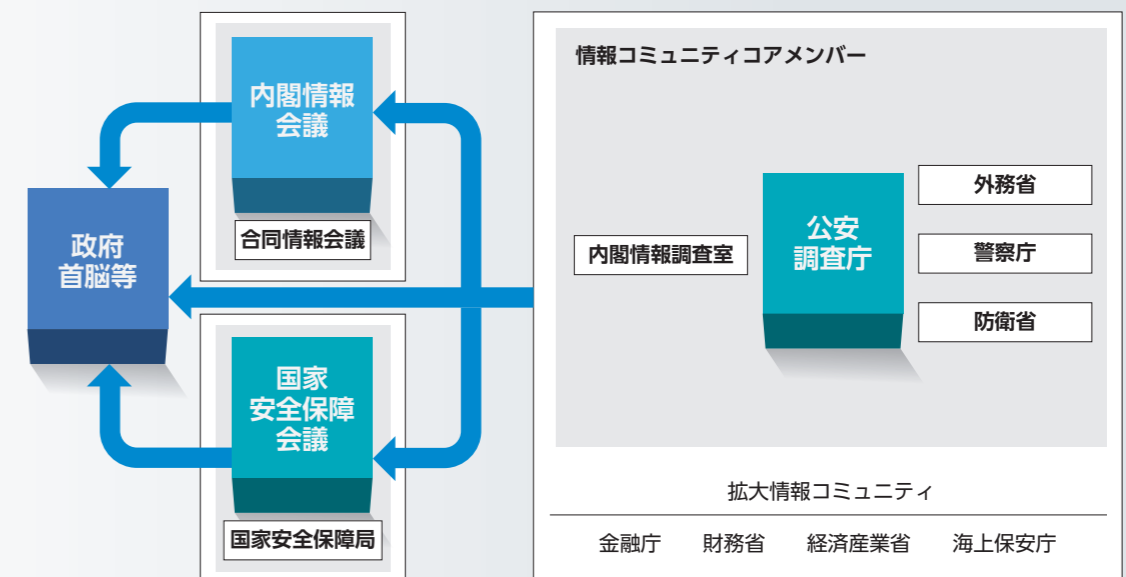
公安調査庁は、破壊活動防止法に基づいて、暴力主義的破壊活動を行う危険性のある団体について調査を行い、規制の必要があると認められる場合には、団体の規制に関して審査及び決定を行う機関である公安審査委員会に対し、その団体の活動制限や解散指定の処分の請求を行います。また、団体規制法に基づいて、過去に無差別大量殺人行為を行った団体について調査を行い、規制の必要があると認められる場合には、公安審査委員会に対し、観察処分や再発防止処分の請求を行います。

なお、観察処分に付された団体に対しては、当該団体の活動状況を明らかにするために、報告徴取、団体施設への立入検査などの規制措置を行います。



情報貢献

公安調査庁は、我が国の情報関係機関で構成される情報コミュニティのコアメンバーとして、官邸のほか、内閣に置かれた内閣情報会議とその下に設置されている合同情報会議、国家安全保障会議を補佐する国家安全保障局等に情報提供しています。我が国の情報機能の一翼を担う公安調査庁は、こうした情報提供を通じ、政府の施策決定やテロの未然防止等に貢献することで、公共の安全への脅威に対する抑止力として機能しています。



TOPIC

公安調査庁は、我が国の企業・大学・研究機関等に対する講演や意見交換などを通じて、国内外で発生した経済安全保障等に関する技術流出事案や、懸念のある働き掛けの手口等の知見を共有しています。公安調査庁では、このような官民連携の強化に向けた取組を進めており、技術・データ・製品等の意図しない流出を未然に防止することに貢献しています。

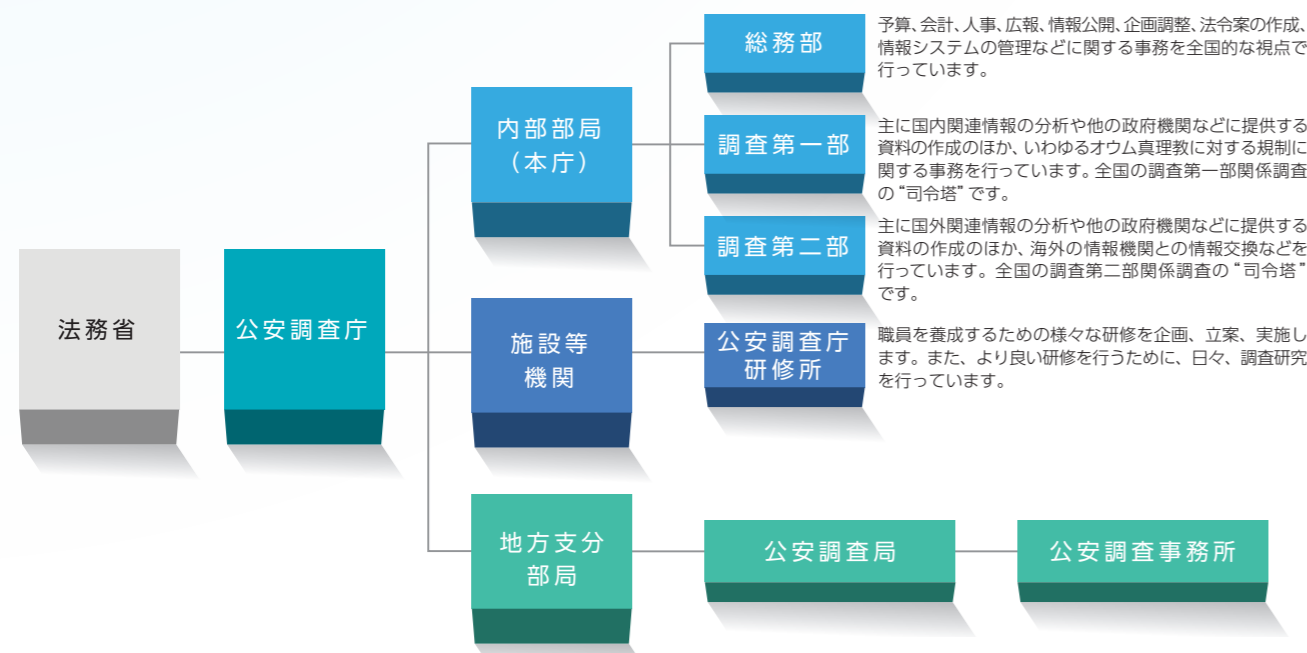


組織・拠点

情報を取り逃さない。 全国に張り巡らされたネットワーク。

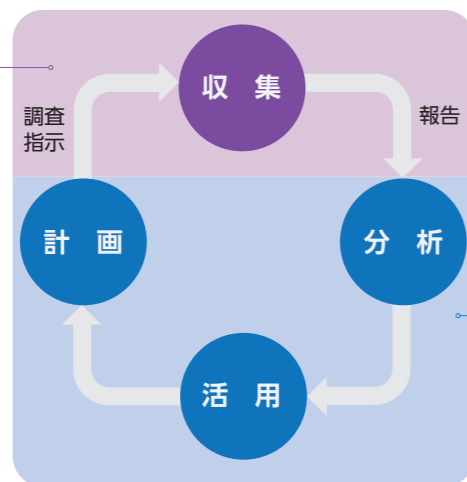
公安調査庁は、昭和27年7月21日、破壊活動防止法の施行に伴い、同法に規定する破壊的団体の規制に関する調査及び処分の請求に関する事務を一体的に遂行するために設置された行政機関です。また、平成11年12月27日には、無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律(団体規制法)が施行され、無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する調査、処分の請求及び規制措置に関する事務が付加されました。

その組織は、下図のように内部部局、施設等機関及び地方支分部局からなり、内部部局として総務部、調査第一部及び調査第二部の三部、施設等機関として公安調査庁研修所、地方支分部局として全国に公安調査局及び公安調査事務所があります。



公安調査局・公安調査事務所

調査指示に基づき、破壊的団体等について知る人から話を聞いたり、観察処分に付されている団体については団体の施設内に立ち入り、必要な検査を行ったりなどして、様々な情報を集めます。その上で、それらについて本庁に報告します。



公安調査庁 本庁

どのような情報を集めれば良いかを考え、調査指示を出します。また、調査指示に基づき収集・報告された情報を、様々な角度から分析・評価します。

分析・評価された情報を破壊的団体等を規制するための証拠として整理・保管するほか、必要に応じて公安審査委員会に対し団体の規制処方を請求します。また、必要に応じて、総理をはじめとする政府要路やその他の政府機関などに、分析・評価された情報を提供します。

本庁及び地方支分部局の配置状況

公安調査庁

- 本庁は、組織内で唯一情報の分析機能を担う、組織の司令塔です。本庁には、本庁採用の職員だけでなく、現場から個性豊かな職員が集まってくるので、様々な個性を受容する雰囲気があります。そのような組織の司令塔に一年目から配属される総合職職員には、経験豊かな先輩職員が、優しく丁寧に業務をたたき込んでくれます。庁舎の地下には食堂等が並んでいるので、楽しく息抜きをしつつ業務への英気を養うことができます。国家の中枢である霞が関で、公共の安全のために働く仲間をお待ちしています。
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-1-1 中央合同庁舎6号館
TEL: 03-3592-5711

東北公安調査局

- 東北公安調査局は、広大な東北6県を管轄しており、限られた人数の下で、時には所属の垣根を超えて業務を行うことがあります。その際、普段は接点の少ない職員と共同で仕事をすることで刺激を受け、いろいろな経験ができる貴重な機会になっています。
〒980-0821 仙台市青葉区春日町7-25 仙台第三法務総合庁舎
TEL: 022-721-2701

関東公安調査局

- 関東公安調査局は、我が国の首都・東京を含む関東甲信越地方に静岡を加えた広範囲の地域を管轄しています。人や物が集まる大都市には情報も集中するため、調査業務は多岐にわたります。国内外の情勢の変化に伴い、情報の重要性が一層高まる中、全国最大規模の公安調査局として緊張感もありますが、たくさんの先輩・同僚に支えられながら、大きなやりがいを感じることができます。
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-1-10 九段合同庁舎
TEL: 03-3261-8585



九州公安調査局

- 「アジアの玄関口」と呼ばれる九州は、海外との往来が多い国際的な地域です。そのため、九州公安調査局での業務は幅広く、様々な分野に及ぶため、その分、個々が活躍できるチャンスも多いと言えます。ぜひ九州公安調査局で一緒に働きましょう！
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴3-5-25 福岡第1法務総合庁舎
TEL: 092-721-1845

那覇公安調査事務所

- 〒900-0022 那覇市樋川11-15-15 那覇第一地方合同庁舎東棟6階
TEL: 098-853-2948

北海道公安調査局

- 北海道公安調査局は、広大な大地に育まれた豊かな人間性を持つ上司が、若手調査官の業務目標の達成をサポートしてくれるため、自信を持って業務に取り組むことができます。また、今後の目標を設定する際は親身になって相談に乗ってくれるので、将来の業務プランで不安なことがあってもすぐに解消することができます。
〒060-0042 札幌市中央区大通西12 札幌第三合同庁舎
TEL: 011-261-9810



中部公安調査局

- 中部公安調査局及び金沢公安調査事務所が所管するエリアは東海北陸6県となります。管内には、若手の職員であっても、自ら仕事に関する企画・立案をする雰囲気があります。また勤務時間帯を柔軟に設定できるフレックスタイム制度などを利用する職員も多く、公私の両立を図りやすい職場環境だと思います。
〒460-0001 名古屋市中区三の丸4-3-1 名古屋法務合同庁舎
TEL: 052-951-4531

近畿公安調査局

- 近畿公安調査局は令和4年度に新庁舎に移転しました。執務室は清潔で明るく、食堂、売店、休憩スペースなどの施設・設備が充実しており、オフィス環境は快適です。また、職員数も多いので、上司・先輩からのサポートが手厚いです。業務の進め方などについて、上司に気軽に相談できる雰囲気があり、若手職員でも安心して仕事をすることができます。
〒540-0008 大阪府中央区大手前3-1-41 大手前合同庁舎
TEL: 06-6943-7771

中国公安調査局

- 中国地方の温暖で暮らしやすい気候の影響もあってか、穏やかな人柄の人が多く、職場内の人間関係が密接です。チームでは、上司や先輩から、実際の業務を通じて、必要な知識・技術を学ぶことができますし、意見交換が活発に行われるので、自身の意見を遠慮なく伝えることができます。職員のWLBについても、男女問わず多くの職員が育児休業等の制度を積極的に活用しています。
〒730-0012 広島市中区上八丁堀2-31 広島法務総合庁舎
TEL: 082-228-5141

四国公安調査局

- 四国公安調査局の特徴を一言で言えば、一番小さい局と表現できます。この小規模局ならではの利点としては、若手職員のうちから責任ある仕事を任せてもらえるという点が挙げられます。もちろん上司や先輩方からの懇切丁寧な指導はありますが、他の局に比べると、一人で調査に出掛けるようになる時期が早い上、若手のうちから企画立案が通りますし、その分早く自分の力を試すことができます。
〒760-0033 高松市丸の内1-1 高松法務合同庁舎
TEL: 087-822-6666

日々の努力の積み重ねが、日本の平和を支える。



当 庁が最大の強みとする「ヒューマンリソース(人的情報収集)」の対象は人間です。人間関係を構築し、情報収集を進める手法に一律の答えはありません。公安調査官の業務は、本庁からの調査指示を受けて、情報を持つ人物にどのようにアプローチするのか、企画・協議するところから始まります。取るべきアプローチの仕方は千差万別です。若手調査官も自身のこれまでの経験や得意分野などを生かして、情報収集に向けたアイデアを積極的に提案しています。

次 に、協議で決定した企画に基づき、実際に情報を持つ人物に会っていきます。公安調査官が接触を図る相手は必ずしも協力的とは限りませんが、そのような人物からも信頼を得て、「あなたのためなら」と情報提供を受ける関係を築くことが求められます。その際、コミュニケーション能力は大事ですが、それが全てではありません。根気強く面談を重ねる忍耐力、熱意や創意工夫、冷静な判断力などが大きな武器になります。その上で真実性を見極めながら必要な情報を引き出していきます。

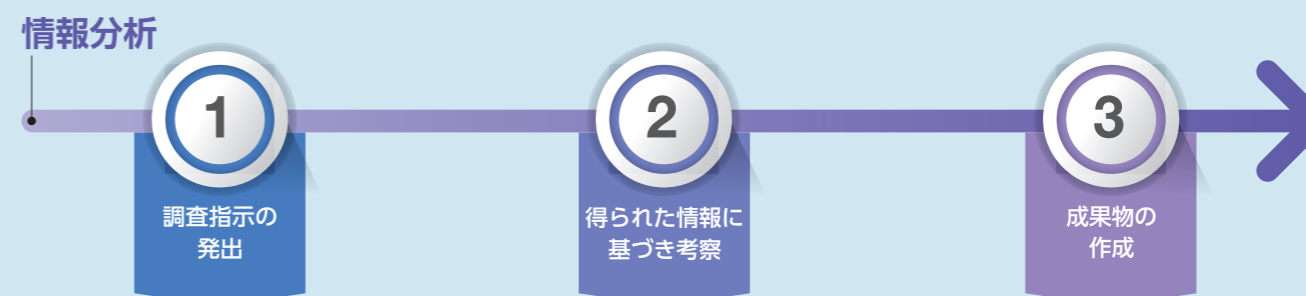
公 安調査官は、収集した情報の内容を精査し、報告書にして本庁の分析担当官に届けます。自ら収集した、言わば形の無い情報を、文章という形に過不足なく落とし込む作業は、インテリジェンス活動の重要な過程の一つです。最前線で生の情報に触れる公安調査官には、その信憑性を判断するための材料や微妙なニュアンスを正確に伝える責務があり、分析担当官をミスリードすることがないように適切なアウトプットに努めます。

調査では、上司の協力を得ながらも一人で乗り切らねばならない局面があります。調査の初動である企画は、各調査官が持ち味を發揮し、かつ、組織が蓄積してきた知識や経験を各調査官に還元する重要な工程です。自身の企画はもとより、部下指導に携わる身として、部下の企画に有用な助言をし、良い取組につながった時には、大きなやりがいを感じます。

求める情報を入手するため、面談相手の趣味や嗜好に合わせて会話を組み立てます。国際情勢や政治情勢の話題に限らず、アニメやスポーツ等の多様な話題に合わせられるよう日頃から多趣味でいるよう心掛けています。思うような情報を入手できないこともあります。誰にも知られていない情報を入手できれば、大きな達成感が得られます。

見聞きした情報を文章で伝えることは簡単ではありませんが、入手した情報を正確かつ具体的に本庁の分析担当官に伝えられるのは、現場の調査官だけなので、大きな責任を感じながら報告書を作成しています。また、作成した報告書の内容が分析担当官に評価されることもあり、やりがいも感じられます。

公安調査“庁”の業務は分かったけれども、公安調査“官”は何をするのか？ 一朝一夕ではいけない情報収集・分析業務を“解剖”してみました。公安調査官の泥臭い日々の努力が、公共の安全の確保につながっています。



分 析業務を担当する本庁では、全国の現場に調査指示を出し、どのような情報が必要であるかを伝えます。調査指示は、政府要路や関係機関の情報ニーズに即していることだけでなく、分析担当官のアイデアや洞察力をいかし、公共の安全に影響を及ぼすおそれのある潜在的な動向を捉え、問題提起につながるような独自性の高い情報を探っていくことも必要となります。また、情報収集を効率的に進めるための現場との日常的な連携・調整も欠かせません。

現 場から情報が届くと、分析担当官は情報の分析を行い、価値・真偽を見極め、評価します。先入観や思い込みは禁物で、手元にある情報と他の手段によって得られた情報などを突き合わせて検証します。時には、調査指示の狙いとは異なる実相が示されることもあり、この段階での分析業務には、柔軟な思考力と慎重さが求められます。

分 析を経て価値があると評価した情報は、資料にまとめた上で、政府要路や関係機関に提供します。必要とされる情報や求められる資料は、情報の受け手に応じておのずと異なります。多忙を極める政策決定者に対しては、要点を瞬時に過不足なく伝えるため、分かりやすく見やすい資料の作成に努めます。専門性の高い関係機関に対しては、詳細な情報を正確かつ論理的に表現し、適切なタイミングで提供することが重要となります。

全国の現場から寄せられた情報を比較・照合し、全体像を把握する上で足りないパズルのピースを埋めるため、現場に調査指示を出しています。現場と密に連絡を取り合って共に試行錯誤し、最終的に必要な情報の入手につながったときは、大きな達成感を覚えます。

分析業務を担当するにあたり、多様な知識・経験を培い、多角的な視点を持つことの重要性を実感しています。自身の知識・経験不足に直面することも多いですが、頼れる上司の下、積極的に課題を克服しながら、分析力・専門性を高めることができる環境で、充実した日々を送っています。

全国の担当官が集めた多種多様な情報を整理・分析し、提供先に応じて資料の内容や見せ方を考える過程では、自分の知見・センスを最大限発揮することができます。また、資料の提供先から感謝と前向きなフィードバックをもらった際は、大きなやりがいを感じます。

職員の日

本庁 | 総務部総務課 公安調査専門職
平成 22 年入庁 (国家 I 種)

6:00	起床～出勤 1 児の母。身支度後に子を起こし朝食。子(絶賛イヤイヤ期)を急かしたら「ゆっくりやりたいの!」と叱られ謝罪。子を抱えて保育園へ。
8:30	登庁～始業 班員からの申し送りやメール等をチェック、締切り等を踏まえ処理の優先順位を確認。
9:30	班内協議 他省庁等から届いた照会などへの対応方針を班内で協議。班員が作成した資料をチェックし、修正のポイントを指摘。
10:30	庁内協議 持ち込まれた案件について、方針すり合わせのため他課室と協議を実施。
12:30	昼休み 退庁時間を繰り上げるため、休憩時間 30 分短縮制度を利用。弁当を食べつつ、趣味のウェブ漫画を閲覧。
13:00	資料作成 庁内協議の結果を踏まえ資料を作成。必要に応じて判例を検索、法務図書館から各種法律の逐条解説を借りて内容を検討。
15:00	各種協議 他課室から新たな案件が接収。班内で作業進捗等を確認、新規の業務を分配しつつ、班員作成資料をチェック。
16:45	退庁 緊急時には連絡してくださいと伝え、定時退庁。保育園に子を迎えに。
18:40	帰宅 入浴、夕食、洗濯、翌日登園準備と怒濤の家事育児。園で昼寝して体力全開の子が寝ない。寝かし付けという概念を捨てる。大体 22 時に子と就寝。

組織に支えられて家事育児

所属部署では、所管法令の解釈、内規の改正に関する審査等が主な業務のため、打合せをよく行う一方、事務作業も多く、育児やWLBのためのテレワークをよく利用しています。出産後に二つの部署を経験しましたが、どちらも温かな環境で、登庁後 30 分で保育園から発熱による子のお迎え指示があった際も「すぐに行ってあげて」と送り出してもらえました。理解ある上司と班員に支えられている分、成果でお返しできればと心掛けています。



本庁 | 調査第二部 上席調査官
平成 21 年入庁 (国家 II 種)

6:30	起床～出勤 単身赴任中のため、遠方の家族とタブレット端末でビデオ通話をつなげたまま出勤準備。通勤中は、海外の現地報道を携帯アプリで視聴。最新の現地情勢を確認。
9:15	登庁 国内外の新聞等で担当業務に関する記事を確認。
9:30	始業 公安調査局等から送られてくる報告書を確認。至急対応すべき内容のものは、上司に報告し、方針を協議。
10:00	資料作成 関係機関に提供する資料を作成。不足している情報については、公安調査局等の調査官に追加の調査を依頼。
11:00	他省庁からの照会依頼を受け資料作成 他省庁から「〇〇の現状について教えてほしい」との依頼を受け、回答のための資料作成を開始。
12:00	昼食・休憩 食堂で昼食を取って、13時まで仮眠。
14:00	外国機関との協議 カウンターパートの外国関係機関との会議に参加。自分が作成した資料を発表し、意見交換。
15:30	報告書確認・資料作成 日中に送られてきた地方局等からの報告書を確認・処理しつつ、資料作成を継続。
18:15	退庁 資料作成のスケジュールを確認し、定時退庁。語学の勉強を兼ねて海外ドラマを視聴しながら移動。夕食は、その日の気分で外食。
19:45	帰宅 自宅とビデオ通話をしつつ、テレビ観賞。子どもが寝るのを確認してから就寝。

あらゆる情報を用いた分析作業

有益な資料の作成には、報告書以外にも各種報道、過去の事例、自身の知識など、あらゆる情報をフル活用する必要があるため、情報の蓄積、知識の習得なども重要な業務です。また、場合によっては残業することもあります。語学は、入庁後の語学研修で一から習得し、業務で活用していますが、自分で研さんを続けています。当庁は、プライベートの時間を尊重してくれる雰囲気があるため、休暇を積極的に利用して、家族との時間や趣味の時間も大切にしています。



働きやすい職場環境は当庁の大きな魅力の一つです。

ワークライフバランスの充実と我が国の平和の実現は、いったいどのように両立されているのか？ 職員の日を覗いてみたら、その答えが見つかるはずです。皆さんが公安調査官になったら、どのような1日を送ることになるのか。是非イメージしてみてください。

近畿公安調査局 | 調査第一部 上席調査官
平成 22 年入庁 (国家 II 種)

6:00	起床～出勤 テレビでニュースを聞き流しながら、妻・子供(1 歳児)の朝食を準備。先に出勤する妻を見送り、子供に朝食を食べさせて保育園に送迎。
9:15	登庁 通勤中は、主要ニュース及び担当業務の関連記事を新聞でチェック。
9:30	始業 自身及び部下の業務予定を確認した後、前日の面談等で聴取した内容を整理して午前中のうちに報告書を作成、報告。
12:00	昼食 気分転換のため庁舎近くの飲食店で昼食を取り、子供の写真を見ながら英気を養う。
13:00	本庁からの調査指示 本庁から「本日中に管内における〇〇の関連情報を速報してほしい」と指示を受けて、部下と急きょ事前協議を行う。上司にも意見を聞くなど、入念に準備を行った後、部下と共に出発。
14:30	面談 本庁指示を踏まえて、〇〇に詳しい企業や個人から情報を聴取し、今後も情報提供してもらえるよう、人間関係を構築。継続的に〇〇をめぐる情報の入手につなげるため、後日の面談のアポイントメントを取る。
17:00	報告 速報性が求められた本庁指示のため、上司に報告後、直ちに、本庁へ一報。その後、詳細について、部下と分担しながら早急に報告書を作成し、本庁へ報告。
18:15	退庁 勤務時間内に業務を完了したため、定時で退庁。
19:15	帰宅 先に帰宅した妻が夕食の支度や子供の寝かし付けをしてくれたので、食器洗いと洗濯物をたたむ。就寝中の子供の寝顔を見て、幸せを実感。

育児と変化する情勢へのキャッチアップを両立

国内外の情勢は、日々目まぐるしく変化しています。情報には正確性のほか、迅速性が求められることが多々ありますので、常にアンテナを張り巡らして業務にあたっています。現在、妻はフルタイム勤務ですので、保育園に通う子供の育児と家事に協力して取り組んでいます。仕事と育児・家事の両立は困難な面もありますが、休暇が取りやすく、育児支援諸制度をフル活用できる職場環境ですので、忙しくも両立することができています。



北海道公安調査局 | 調査第二部 公安調査官
令和 4 年入庁 (一般職)

5:30	起床～出勤 テレビや新聞、インターネットで担当業務の関連情報をチェック。通勤中、語学研さんのため、海外ニュースを聞きながら登庁。
8:30	登庁～始業 本庁からの調査指示や上司との協議を踏まえ、本日の面談の目的や要点などに関する最終チェック。
10:00	面談 協議した内容に基づき、面談を実施。相手との良好な関係を築き、情報提供をしてもらうため、状況に応じ対応。その後、職場に戻り、面談内容を上司に報告。
12:00	昼食 食事を取り、午後からの仕事に備えて仮眠。
13:00	報告書作成・本庁へ報告 午前中の面談内容を報告書にする。正確性等が求められる作業であり、目標は「誰が読んでも分かる報告書」。完成したら、本庁に報告。
15:00	協議 明日の面談に備え、上司と協議。面談の方向性や聴取内容、リスク管理等を徹底的に話し合う。
17:15	退庁 定時退庁。
18:15	帰宅 翌日の業務に向けて気持ちを切り替えるために趣味のスポーツでリフレッシュ。今後の調査業務に役立てるため、語学の資格取得に向け勉強中。

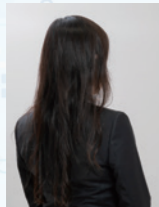
不安定化する国際情勢の理解に向けて

我が国周辺国の動向に関する調査業務に携わっています。刻々と変化する国際情勢を正確に理解するため、最新ニュースを常に確認しているほか、個人としても語学や資格の勉強をするなど、様々な知識を身に付けるよう努めています。他方、可能な限り定時まで業務を終了させ、スポーツなどの趣味の時間を確保するようにしており、業務とプライベートが両立する、忙しくも充実した日々を過ごしています。



キャリアパス及びOBからのメッセージ

様々な経験を経て、成長できる環境がある。



総合職

本庁で採用され、公安調査局で情報収集業務を担当した後、約2年周期で本庁各部において様々な業務に従事したほか、他省庁等への出向を2度経験しました。幅広い経験を積みながらふかかな視野・知見を養うよう心掛けるとともに、自身の果たすべき役割を意識しながら業務に従事しています。

本庁総務部総務課 平成15年入庁（室長級）（国家I種・女性）

入庁1年目には、公安調査官として必要な知識を身に付けるため、研修所で新規採用者研修を受けました。研修内容は幅広く、業務遂行の前提となる事項が多く含まれており、公安調査官としてのスタートに大きく役立ちました。

1年目 本庁総務部
(役職：公安調査官)

本庁で採用後、各種研修を受け、総務部の法令担当部署に配属されました。当時は9.11米国同時多発テロ事件の直後でもあり、様々な法制調査・研究を行うとともに、政府の「テロの未然防止に関する行動計画」の策定に関する業務にも携わり、他省庁との調整等も経験しました。

3年目 関東公安調査局
(役職：公安調査官)

入庁3～4年目は、関東公安調査局の調査第二部で、「現場」の情報収集業務に従事しました。上司や先輩の指導・助言を受けつつ、どのように情報を入手するか自ら企画して「人と会って情報を収集する業務」に携わ中、有益な情報を入手した際には大きな達成感を得ることができました。

5年目 本庁調査第二部
(役職：主任調査官)

本庁調査第二部に異動し、国内外関連情報の分析業務に携わった後、企画調整業務に従事しました。分析業務では、収集した情報が活用されるまでの流れを実感し、また、企画調整業務では、企画立案、他省庁との調整、国会対応関係等のいわゆる「霞が関」的な業務を主に経験しました。

7年目 他省庁
(役職：係長級)

他省庁に出向し、3年間勤務しました。それまでとは全く異なる環境・業務の中で、知見を広げるための多くの機会を得るとともに、的確な判断を迅速に行うことが求められる局面が多く、責任も大きいながらも大きく感じられる経験でした。

10年目 本庁調査第二部
(役職：上席調査官～統括調査官～公安調査専門職)

本庁調査第二部に戻り、国内外関連情報の分析業務に携わる中で係長級を経て課長補佐級に昇任した後、以前と同じ部署で再び企画調整業務に従事しました。若手職員であった時と比べ、課長補佐級職員の役割として、より幅広い実務を自身が主軸となってけん引し、動かしていく必要性を認識しました。

13年目 本庁調査第一部
(役職：公安調査専門職)

本庁内で調査第一部に異動し、国内関連情報の分析業務に従事した後、総務部に異動しました。いずれも自身にとっては新たな分野での業務経験でしたが、課長補佐級職員として、これまでの業務経験を踏まえ、新たな視点・切り口を模索するなどして業務を推進することを心掛けました。

16年目 内閣官房に出向
(役職：参事官補佐)

内閣官房に出向しました。関係行政機関との調整や国会対応等も含め、政府全体としての政策・方針を常に意識しつつ責任ある業務を遂行する中で、視野が広がる貴重な経験を積むとともに、大きなやりがいや充実感を感じることができました。

19年目 本庁総務部
(役職：室長級)

出向先から本庁に戻り、総務部で法令関係業務に従事した後、入庁19年目から、情報セキュリティ等IT関連業務を担当しています。年次を重ねるにつれて、自身の所属する部署が組織の中でどのように機能すべきか、そのために自身は何をすべきか意識しつつ業務に携わっています。



一般職

関東公安調査局で採用され国内関係調査に従事した後、総務部での採用業務や事務所での国外関係調査、法務本省や内閣官房への出向など幅広い分野の業務を経験してきました。こうした経験や培った人脈の全てが情報業務につながるものであり、また、自分を成長させてくれる糧でもあり実感しています。

本庁総務部総務課 平成13年入庁（公安調査専門職）（国家II種・男性）

新規採用者に対する研修
入庁1年目の新人研修であり、調査官としての基礎を徹底的に学びました。全国から集まった同期とのつながりを今でも大切にしています。

人事院行政研修（課長補佐級）
本府省課長補佐級職員を対象に、行政的視野、企画立案能力、管理能力等の向上を図るための研修です。他省庁の方々との議論を通じて、新たな切り口や気付きを得ることができました。

1年目 関東公安調査局
(役職：公安調査官)

関東公安調査局で国内関係調査に従事しました。初めて経験する世界で、歯がゆい思いをしながら必死で先輩の背中を追いかけました。上司や先輩からアドバイスを受けながら、自ら企画した業務で成果を上げられたときの達成感は今でも忘れられません。仕事の面白さを知った新人時代です。

6年目 法務省本省に出向
(役職：係員級)

法務省本省に出向し、司法試験の実施・運営や各種手当制度等に関する人事業務に従事しました。畑違いの業務内容でしたが、少しずつ専門知識を習得しながら経験を積むことで様々な課題に対応することができるようになりました。当時一緒に働いていた他部局の同僚とは今でも良き飲み友達です。

19年目 内閣官房に出向
(役職：係長級)

数年間、現場の最前線で情報収集業務を担当した後、内閣官房に出向し、当庁とは全く違う業務に従事しました。当庁の業務とは舞台を移したスケールの大きい業務であり、刺激的な毎日でした。様々な手段を活用した総合的な分析の重要性に気付かされる貴重な経験となりました。

22年目 本庁総務部
(役職：公安調査専門職)

現在、本庁総務部において当庁全体に関わる調整業務や各種会議の運営等に関する業務に従事しています。これまでの業務経験や出向先での人脈をフルに活用しつつ、部下職員と協力しながら業務にあたっています。今後も様々な分野の業務にチャレンジしていきたいと考えています。



一般職

本庁で採用され、10年目まで分析業務に従事した後、現場での調査業務に就いています。私は前職を経たの採用であり、本庁や専門分野での勤務が続きました。課長補佐級昇任後は、人材・組織づくりに関する業務も増えるなど、専門家とゼネラリストの両立に向かってキャリアパスが進んできたように思います。

関東公安調査局調査第二部 平成16年入庁（統括調査官）（選考採用係長級・女性）

1年目 本庁調査第二部
(役職：公安調査官～上席調査官)

採用は、米国同時多発テロ事件を受けて対策を急ぐ中でした。テロの脅威評価を担当する部門で幹部説明、国内外関係機関との協議、調査指示の作成などに従事する中、短期の現場業務や2年間の在外研究の機会もあり、より高度な情報提供のために一担当官として何ができるのか工夫し続けました。

12年目 他省庁
(役職：係長級)

他省庁へ出向し勤務しました。初代派遣者として、従前とは異なる種類の責任を負うものでしたが、重要な判断を求められる局面が多く、やりがいも感じられました。異なる環境の中で頑張ってみた結果、出向先で評価されたことは大きな励みです。

15年目 関東・近畿公安調査局
(役職：上席調査官～統括調査官)

出向から関東公安調査局へ戻り、課長補佐級昇任後の3年間は近畿公安調査局で勤務しました。初めてじっくりと現場業務に従事する中で、自らが成果を上げることから、部下職員の執務環境を整える調整業務に比重が移っていきました。近畿公安調査局ではスリムな組織の長所を知り、組織づくりへも関心が向きました。

19年目 関東公安調査局
(役職：統括調査官)

入庁以来、初めて他の調査部門へ配属されると同時に、部下職員の支援が中心になりました。判断を求められる際には、複数の職場での経験を踏まえて多角的に物事を見るよう努めています。若い職員には業務の展望を示すことも重要だと感じ、そのためにインプットを増やすことが目下の課題です。

キャリアパス及びOBからのメッセージ

OBからのメッセージ



横尾 洋一氏

昭和61年4月
公安調査庁採用
平成25年4月～
同27年3月
公安調査庁総務部
人事課長
平成27年4月～
同29年3月
東北公安調査局長
平成29年4月～
同30年7月
公安調査庁調査
第二部長
平成30年7月～
令和2年9月
公安調査庁総務部長
令和2年9月～
同4年7月
公安調査庁次長
令和4年9月～
同6年9月
内閣府参与
公安調査庁在任中は
おもに国内外の破壊
的団体の調査・分析、
テロ対策法制、経済安
全保障などを担当。

一般的に、最近の就活生は自分の就職先を決めるにあたり、自身を成長させる組織か否かという点を最も重視するようです。公安調査庁においては、研修をはじめ職員の能力開発のシステムは整っていますし、多様な専門知識を身に付ける機会もあります。しかし、自身の成長という観点から見た公安調査庁の一番の魅力は、業務を通じて、複雑な事象の背景に存在する構造を把握し、その本質まで遡って考察する能力や、様々な関係者との人間関係の距離感の取り方などを身に付けられることだと思います。先の見通せないこれからの時代には、こうした能力は自分の人生を切り開いていく上で大きな武器となると思います。就活生の皆さんには、公安調査庁のこうした利点を十分に理解し、是非とも希望する就職先の一つに加えていただければと思います。



活躍の場

個性が認められる環境



私は平成30年に入庁し、公安調査事務所において、外部の方々との面談などを通じた情報収集に取り組んでいます。当庁は、職員が自ら調査を企画・立案し、実行できるクリエイティブな職場です。ただ、私はもともと遠慮がちな性格であり、入庁当初は、こうした積極性を求められる業務内容に不安を抱いていました。そのような私に、周囲の上司や先輩職員は、

るなど、成果を上げられるようになりましたが、これはひとえに、私の個性を尊重し、大事に育ててくれた諸先輩方のお陰です。

豊富な経験に基づく助言に加え、必要に応じたサポートをしてくださいました。私は、そうやって経験を積む中で、徐々に自信を獲得し、主体的に業務に取り組むことができるようになりました。最近では、入手した情報が時に政府要路に提供され

「ヒューミント」の現場では、様々な立場の人と出会います。そのため、どのような性格の人でも、粘り強く業務に取り組んでいけば、必ず努力が実るタイミングが訪れます。私自身、本来は内向的な性格ですが、その分、面談の際の事前準備を徹底しているため、これが入手情報の質の向上につながっています。このように、インテリジェンスの舞台では、工夫次第で自分の「弱点」を「強み」に変えることができるのです。

私は、これからも「個性をいかす」ことをテーマに、業務にまい進したいと思います。

DATA

平成30年 入庁（一般職）那覇公安調査事務所

若くても主体的に業務に取り組むことができます



私は、入庁5年目の頃、国外関係の調査に従事していました。その際、あるトピックについて本庁から調査指示を受け、自分なりに取り組むことになりました。当時は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けた緊急事態宣言の最中であり、人と会って話を聞くことが困難な状況だったため、思うように調査活動が進まなかったことを記憶しています。しかし、上司・

先輩職員のアドバイスを受け、少ない面談回数・短い面談時間の中でも本庁が求めている情報のキモとなる部分が何かを考え、重点的に聴取するなど、効率的に情報収集を行うよう努め、指定された期日までに本庁へ報告できました。

その後、本庁から私の情報が政府高官への情報提供に使用されたとの報告を受けました。自身の入手した情報がしかるべき立場の方へ届けられた

という実感とともに、公共の安全の確保に寄与することができたのだという達成感は今でも鮮明に覚えています。

公安調査庁の業務は、うまくいかないことや空振りに終わることも多く、くじけず粘り強く取り組む忍耐力が必要です。また、必要な情報を適切な時期に届けることが求められるため、タイミングも業務を遂行する上で非常に重要なファクターだと感じます。しかし、その分、仕事がかまくらいった際の達成感は一歩おではないでしょうか。諦めずに試行錯誤して取り組めば、若い職員でもきっと活躍することができます。

DATA

平成29年 入庁（一般職）中部公安調査局調査第二部
令和4年 同総務部

活躍の場

幹部要員候補として

私は、民間企業を退職し、国家Ⅱ種として公安調査局に採用されました。同期より年齢が高く、当時は、最終的な役職は同期に及ばない?との考えも頭をよぎりました。採用後は国内関係の情報収集に従事したものの、特筆する実績はないまま、入庁7年目に本庁の分析担当へ異動。しかし、これが転機になりました。本庁には全国の調査官が日夜収集する情報が大量に集約されており、これら情報の分析結果を官邸等の関係機関に提供する職務に醍醐味を感じたのです。仕事に夢になる余り、気付いたら終電間際ということも。

このような中、入庁12年目に、幹部要員の選抜に挑むチャンスを得ました。幹部要員には育成機会が与えられ、私の場合、調査部全体の企画・調整業務に従事した後、内閣官房などへ2度出向し、係長級と補佐級の人事院行政研修に参加もしました。

政府高官や著名人が出席する有識者会議の運営事務を任されたりと、畑違いの職務に度々苦戦しましたが、幹部要員に求められる見識や視野を養う上で、かけがえのない経験を積めたことに感謝しています。

入庁28年目に本庁調査部門の総括に昇任。一般職としては早いタイミングとなり、恐れ多い気持ちとプレッシャーが大きいです。それが故に職責を全うしなければ、という気概も湧いてきます。総括は、中間管理職とはいえ、全国の情報収集や分析にとどまらず、対外調整、職員健康管理、人事評価等々、広く部門の方針に影響を持つ立場にあるだけに、総合的な



内閣官房出向時に担当課長補佐として運営に関わった有識者会議



コロナ禍後初の海外旅行(2023年8月、ハワイ島)

力量が問われます。次のステップに向けて実力を磨く機会でもあり、真摯に務めていく所存です。

DATA	平成7年	入庁(Ⅱ職)近畿公安調査局第一部	平成29年	公安調査庁調査第一部
	平成11年	滋賀公安調査事務所	平成31年	出入国在留管理庁に出向
	平成14年	公安調査庁調査第一部	令和2年	公安調査庁調査第一部
	平成27年	内閣官房に出向		

出向を経て感じた成長

いつかは出向する場面もあるかと思っていたが、これほど早くその機会が訪れるとは…。

内閣官房への出向打診を受けた際、心の中でそう思った。

他省庁という未知の世界にかすかな不安を抱いたものの、「出向するならば内閣官房で勤務してみたい」と思っていたため、すぐにその打診を受けることにした。

出向先の部署には、政策官庁・情報官庁を問わず、様々な省庁から極めて多様なバックグラウンドを持つ職員が集まっており、私は、その方々とともに、我が国の外交・防衛政策の最前線で刺激的な日々を送った。

それまで、他省庁にインテリジェンスを発信する立場であったが、出向先では、

インテリジェンスの受け手として、当庁含む情報官庁が発信するインテリジェンスを政策官庁がどのように受け止め、取り扱っているのかについて学ぶことができた。

時に汗水を垂らし、時に建物内を全力で駆け抜けながら、出向しなければ関わることでもできなかった多くの方々との交流を通じ、自身の中の物の見方を磨くこともできた。

出向先で経験したあらゆる出来事を通じ、自身の視野は大きく広がった。

DATA	平成29年	入庁(総合職)公安調査庁調査第二部
	平成30年	九州公安調査局調査第一部
	令和2年	公安調査庁総務部総務課
	令和2年	内閣官房に出向
	令和5年	公安調査庁調査第二部(国外情報の分析担当)



今、再び当庁に戻り、時々刻々と変わる国際情勢の分析業務にあたっている。

出向中の経験を踏まえ、その時々の情報ニーズを敏感に察知し、必要とされるインテリジェンスをタイムリーに作成・提供することを通じ、我が国の公共の安全の確保に寄与していきたい。

活躍の場

「情報の力で国民を守る」ということ

当庁のキャッチフレーズである「情報の力で国民を守る」について、皆さんはどんな場面を想像するでしょうか?私がこのキャッチフレーズを一番実感したのが、令和3年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(東京大会)です。当時、当庁は東京大会の安全開催に資するための調査活動を推進することなどを目的に「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連特別調査本部」を設置しており、私は同本部の一員である本庁調査第二部の課長補佐級職員として、大会前から大会後に至るまで、昼夜問わず全国の現場から寄せられる東京大会に係る関連情報を基に作成された分析結果について、「どのような脅威があるのか」、「大会の安全開催に影響はないのか」などの目線から精査し、適宜官邸をはじめとする関係機

関に提供していました。大会期間中は新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言下で、大会は無観客での開催となりましたが、自分の祖国で開催され、世界中の人々が注目する国際的なビッグイベントの安全開催に関わる業務に従事できたことは、私の公安調査官人生における大きな財産となっています。



DATA	平成22年	入庁(Ⅰ種)公安調査庁調査第二部	平成26年	公安調査庁調査第一部
	平成23年	関東公安調査局調査第一部	平成27年	内閣官房に出向
	平成24年	法務省本省に出向	平成29年	公安調査庁調査第二部
			令和5年	公安調査庁総務部人事課

行政官長期在外研究員制度による英国留学

数年前に携わった国際イベントに関する業務を通して、国際感覚と語学力の重要性を再確認するとともに、何か専門性を持つことが今後のキャリアに不可欠であると実感し、行政官長期在外研究員制度による2年間の海外留学を希望しました。留学先の英国では、経済と国際関係の両面から、経済安全保障に関する研究を行っています。

渡英1年目はロンドンにある大学院で経済学を専攻し、経済安全保障に関連する情報流出についてゲーム理論を用いた考察を行いました。また、現地出身の学生だけではなく、私と同じように他国から来た留学生と一緒に課題に取り組む中で、考え方の違いや多様な価値観の在り方を感じました。

2年目となる現在はロンドン近郊の大学院に在籍し、安全保障に焦点をあて、国際関係の主要な理論などを学んでいます。授業で行う発表の準備などのため、授業のない日も学校の図書館に通う毎日ですが、野鳥やリスが息づく自然豊かなキャンパス内でひと息ついたり、散歩中の犬を見たりして気分転換しています。ここでは、学生生活だけではなく近所の方との交流など、英国文化に囲まれた日々を過ごしています。

今回の留学に際し、これまで当庁で従事した業務で得た気付きから、入庁前

に大学で専攻した内容に関連する研究テーマを選ぶことができたので、当庁は職員それぞれの背景を踏まえたステップアップができる環境だと思います。帰国後は、留学で得た知見から多角的な視点を持って業務に取り組みたいと考えています。

DATA	平成28年	入庁(総合職)公安調査庁調査第一部
	平成29年	関東公安調査局調査第二部
	平成30年	公益財団法人に派遣
	令和2年	公安調査庁総務部
令和4年	公安調査庁調査第二部	

ワークライフバランス

ワークライフバランスの充実

育児と仕事を両立できる環境

私は3歳と1歳半の息子がいます。産休・育休の取得にあたっては、ありがたいことに大きな不安はありませんでした。身近にいる産休・育休を取得する先輩職員を見て、組織内に取得を後押しする



雰囲気ができることを感じていたためです。実際に休みに入る際には、上司・同僚から「一大仕事、頑張ってこい！」との温かい言葉を掛けられ、気持ち的にもスムーズに業務を引き継ぐことができました。おかげで、その後の出産・育児に専念できたことは今でも感謝しています。

また、復帰の際の「仕事と育児の両立ができるだろうか」といった不安は、上司が復帰後の働き方について相談に乗ってくれたり、子育てメンター制度を活用して

先輩職員に両立のコツを教えてもらったことで解消することができました。

これまで、通勤緩和や保育時間、子の看護休暇等の各種支援制度をフル活用しています。今日現在、2人の子の育児と仕事の慌ただしくも充実した生活を送れているのは、職員の様々な事情に応じ、一人ひとりが働きやすいよう親身になって考えてくれるアットホームな当庁ならではの風土のおかげであるとも感じています。

DATA



平成27年 入庁（総合職）
公安調査庁調査第一部
平成28年 関東公安調査局調査第二部
平成30年 公安調査庁総務部総務課
令和4年 公安調査庁調査第二部

仕事と趣味 ゲームを通じてレベルアップ

右の写真は私の「秘密基地」です。ここで私が何をしているか予想してみてください。もちろん、ゲームですね。その中で私は特に、戦略を立てて遊ぶジャンルが大好きです。ではここで、実際の私のゲームのやり方を順に見てみましょう。

- 1 OBSERVE …… 人員や建物の配置を観察
- 2 ORIENT …… 目的地に赴き、制圧可能な戦術を模索
- 3 DECIDE …… 刻一刻と変わる状況に合わせて戦術の詳細を決定
- 4 ACT …… 制圧作戦の遂行

以上がゲームのサイクルですが、計画どおりに実行できた時の快感はたまらないものです。ん？OODA…。これ、仕事の話かよ！と思ったあなた、大正解です。こうしたゲームの一連の流れが、仕事やヒューミントに生かしていると思います。



当庁は、休暇を意欲的かつ気兼ねなく取得できる雰囲気があります。また、休暇と併せて様々な勤務時間の制度を活用することで、より多くの時間を趣味に充てることができます。実際、私は時間休やフレックスタイム制度を活用して趣味を充実させています。

情報の力で国民を守るために、私はゲームを通じて「戦略」にさらなる磨きをかけたいと考えています。

皆さんも当庁でワークライフバランスを充実させませんか？

DATA



令和5年 入庁（一般職）
中部公安調査局総務部



同僚との結束を高めるために



庁内でバスケットボールサークルを立ち上げ、休日に同僚らと練習をしています。休日まで職場の人々？と思うかもしれませんが、分析業務に従事し、常に机に向かって情報と格闘している私にとっては、普段会うことのない他部署や他局の同僚と交流できる数少ない機会であり、また、学生時代から打ち込んできたバスケットを通してリフレッシュできる休日の楽しみの一つになっています。スポーツを通じた交流においては、職場の同僚という枠を超えて、深い人間関係とチームワークが生まれると感じます。バスケットで出会った同僚は、一緒にスポーツを楽しむだけでなく、時には仕事の悩みを相談し合うなど、業務を円滑に進める上でも私を支えてくれる存在です。

DATA



平成21年 入庁（II種）中国公安調査局調査第二部
平成25年 公安調査庁総務部総務課
平成26年 法務省本省に出向
平成28年 公安調査庁総務部総務課
平成30年 公安調査庁調査第二部
令和3年 内閣官房に出向
令和4年 公安調査庁調査第二部

配偶者同行休業経験者・同行先での生活や同行による家庭の充実について

妻がオーストラリアへ転勤することが決まり、私は、配偶者同行休業制度をいかして妻と共に異国での新しい生活を決意しました。慣れない土地での生活に加え、「主夫業」も初めての経験であったため、休業当初は新しい環境での生活に悪戦苦闘でした。

しかし、現地で知り合った友人達のサポートを受け、充実した海外生活を送ることができました。また、帰国際に妻から贈られた感謝の言葉は一生の宝物です。

余談ですが、休業中にサーフィンなどの趣味に打ち込むこともできました。

こうした経験を無駄にせず、今後も夫婦生活や趣味の充実をはかりながらも、日々の業務に励む所存です。

DATA



平成20年 入庁（II種）関東公安調査局調査第二部
平成23年 新潟公安調査事務所
平成28年 関東公安調査局調査第二部
令和3年 公安調査庁調査第二部
令和3年 配偶者同行休業（オーストラリア）
令和5年 公安調査庁調査第二部



オーストラリアNSW州の州都シドニーの風景

座談会 ①

当庁をリードする幹部職員の思いについて

—— 当庁で働くことの魅力、やりがい、組織文化(特徴)は何だと考えますか。

霜田部長 組織が小さいから、個人の裁量が大きい。自分がやったことが、どこにどういう風に反映されたかっていうのが分かりやすい。自分が持ってきた情報が、こういう風に使われたんだっていうのが、入って一年目の若手職員ですら実感できる。本庁に異動して日が浅い職員が企画立案した資料が、例えば官邸幹部のお耳に入る。それは、少人数の小さい組織で、一人ひとりに裁量があって、全員に何らかの役割が振られているからで、その役割も、例えば情報収集をするっていう漠然としたものでしかなくて、そのやり方にはそれぞれの独創的なものが自由に実現できる。その成果が、非常にダイレクトに自分で認識できるっていうところが当庁の魅力なんじゃないのかな。

武田課長 現場の若手調査官が収集した情報であっても有効活用される可能性があるのは、本庁と現場の距離の近さが背景にある。それは組織が小さいからっていうところに一因があって、組織が小さいからこそ、本庁が日々現場に丁寧に関心事項を伝えたり、フィードバックすることが可能なんだよね。自分がやってる方向性が間違っていないという担保を、日々本庁からもらっているわけだから、安心して調査をすることができるよね。しかもそれをやったら成果が出るんだから。そこは本当に当庁の強みだよな。あとは、いろんなこと経験できるよね。現場や本庁、調査部だけではなく、総務部や他省庁への出向など。いろんなジャンルで自分の可能性を確かめられる。

小野寺課長 やはり、個人の裁量の大きさは魅力の一つですね。若い時から自分の裁量で活躍できるし、また、歳を重ねてからも、いわゆる管理職としての仕事以外に、情報収集や分析に関するプロジェクトの立ち上げなどという自分がやりたい業務に携われるという点もあると思います。また、職場の雰囲気も総じて良いと思います。組織はしっかりしている一方、個人の自主性も尊重される、そのバランスが良く、日常を過ごす職場環境としてはかなりお勧めできると思います。こうした雰囲気は、職員個人個人が自立して職務にあたっていることにより、お互いに干渉しすぎないこととの関連性もあると思います。

武田課長 私が現場にいた時の話で、当時の上司がとても良い人だった。その上司は、調査のプロ中のプロ。その上司が、みっちり基本を教えてくださいました後に、「やってみて」と任せてくれた。任せてくれたと言っても、しっかり調査上のリスクを排除するように動いてくれた上だね。基本を教えつつ裁量を与え、かつ、安心感を持って仕事ができる環境を整えてくれるっていうのは、



※肩書は、令和6年4月時点のものです。

なかなか他の組織ではないかもしれないね。それは、人数が少ないからできる。当時は、その上司の部下は私だけだったから、本当に親子みたいな感じ。一緒にいる時間も長いしね。あとは、当庁が使うヒューミントという手法では、自分が知ること以上の情報は取れないので、良い情報を取りたかったら自分を磨かなきゃいけない。だから、仕事をしてると、おのずと自分を磨くことにつながる。一生情報に携われるというのも魅力の一つ。そして、組織全体がヒューミントに特化した機関は、霞が関で当庁ぐらいしかない。若手の時は第一線でやるし、情報収集・分析の指揮・監督を幹部になってもやる。

—— 当庁の業務の特色はありますか

神保課長 当庁の仕事ってとても知的な仕事だと思うんですね。考えることが必要。当庁の仕事は調査業務の基本としての必要な約束事はあるけど、マニュアル的な対応だけで通用する仕事ではないので、一つひとつの物事をちゃんと考えなきゃいけない。それはなぜかという、やっぱりヒューミントの本質って何かといたら、人とどう向き合うかっていう話だから。当庁の仕事って常に深く考えて相手と向き合うこと。いかに情報を持った人に、この調査官のためなら情報を出してあげたかっていう話で、その人から貴重な情報を提供してもらうにはどうすれば良いかってことを考えてるわけだから、自分自身がすごく魅力的じゃないと難しい仕事ですね。

—— 当庁を取り巻く状況についてどう考えますか。

霜田部長 認知度が上がっていると実感できるね。それは、地道に役に立つねっていう認識を持たれる努力をしてきたからじゃないかな。あとは、世の中的に「情報は大事」という認識になってきているのが大きい。

武田課長 昔は、当庁が携われるフィールドは本当に限定的だった。今は経済安全保障とサイバーが入ってきたでしょ。隔世の感があるね。

小野寺課長 当庁は、様々な社会の変化にキャッチアップする努力を続けてきた。情報を扱う者として、今後もこの努力は非常に重要だと思います。

霜田部長 状況に応じて変わらなきゃいけないっていう気持ちを持った職員がいて、うまく変わってきた。みんなが努力して自分で考えて仕事をしている状況だから、かなり自由に組織自体が変化できる。

—— 育休等の子育て支援について教えてください。

武田課長 うちの働きやすい職場だし、メリハリを大事にしているね。
神保課長 入った当時と今では職場環境がだいぶ変わりましたよ。
霜田部長 育休で言うと、私の知っている限りかなりの数の男性職員が取得している。子育て世代とか女性にとっては働きやすくなっていると思うね。

武田課長 最近すごく女性職員が増えてきているし、男性職員も含めて産休や育休を取得する人が多いから、そういう人たちをどうやって支援していくかっていうことに、だんだん組織が慣れてきていると感ずるね。

霜田部長 子育ては、仕事と同じように大変であり重要だね。
小野寺課長 女性職員の活躍で言えば、去年非常に優秀な成績を残した調査官に、若い女性職員が多数入りました。それを見ても、うちでは女性職員が活躍しているなど感じますね。

—— きつかった思い出、やりがいがあったこと、達成感を感じた経験はありますか。

霜田部長 私は、現場で当庁に協力してくれる人と信頼関係を作って、良い情報を引き出したことが思い出に残っているかな。総合職で採用されると、若手の時の現場の経験は2年くらいしか積めない。そんな短期間の中でも、努力や諸条件によってこういった経験が可能。

武田課長 昔、今の経済安全保障担当とかサイバー担当の大元になった班があって、私はその班長をやっていたんだけど、その班でうちの幹部も参加する外部の会議に提供する資料をバンバン作っていた。今の庁内の情報収集・分析体制の発展具合を見ると、その発展にある程度貢献したのかなと思ってるね。



霜田部長 組織全体のベクトルを動かせるっていうのはあるよね。うちだと、組織全体の軌道を変えるみたいなのを、中堅職員でできちゃうんだよね。

—— 採用希望者にメッセージをお願いします。

霜田部長 当庁は個人の裁量が大きく、自分で考えて動くことができる組織です。自分の頭でものを考えて、自分なりの答えをちゃんと出せて、それを正確に伝えられて、自ら行動に移せる人、是非一緒に働きましょう。仕事の相手には多種多様な人がいるので、どういう人間がうちの職員になっても、自分にあった居場所とか役割を見付けられる組織だと思います。みんながみんな、一般に求められているような人ばかりの集団である必要はなく、それぞれの個性に合った役割を与えることができる組織ですので、面接等では、あまり無理をして自分を偽らないで、そのままの自分を出してもらえればと思います。

武田課長 自分の裁量でいろんなことが経験できて、自分の能力を発見できる組織風土を持っているので、未知の自分を知りたいっていう人は来たら面白いんじゃないかなと思います。日本の底流のところ、実はこんなところがうごめいて、その一部分だけが社会にぼこぼこ出てきている。知らないところでこんなことで動いてるんだっていう真髄を知りたい人、世の中の表に出ていない底流のところ何が流れているのかっていうところに興味がある人には、面白いところだと思います。

小野寺課長 漫画や映画みたいな派手さはないんですけど、情報のプロの世界というのは我が国にも確かにあって、いろいろな面白い体験なり、好奇心を満たすような仕事ができます。国民や国に貢献するという目的の面から言っても、生涯を懸けて挑む価値のある仕事だと思います。

神保課長 あまり表に出せないことが多い仕事内容ではありますが、大事な仕事ですので、世の中とか社会を支える一員になってみたい人は是非来ていただければと思います。

 <p>霜田 仁 総務部長 (男性)</p>	 <p>武田 雅之 人事課長 (男性)</p>	 <p>小野寺 聡 調査第一部 第一課長 (男性)</p>	 <p>神保 玲子 調査第二部 第一課長 (女性)</p>
<p>平成 2 年 入庁 (1種) 中国公安調査局調査第一部</p> <p>平成 5 年 公安調査庁調査第二部</p> <p>平成 7 年 九州公安調査局調査第一部</p> <p>平成 10 年 公安調査庁総務部人事課</p> <p>平成 11 年 公安調査庁調査第一部</p> <p>平成 12 年 中部公安調査局調査第一部</p> <p>平成 14 年 公安調査庁調査第一部</p> <p>平成 17 年 他省庁に出向</p> <p>平成 28 年 公安調査庁調査第一部(公安調査管理官)</p> <p>令和 2 年 公安調査庁総務部人事課 (課長)</p> <p>令和 5 年 公安調査庁総務部 (部長)</p> <p>令和 6 年 公安調査庁次長</p>	<p>平成 7 年 入庁 (1種) 東北公安調査局調査第二部</p> <p>平成 9 年 公安調査庁総務部</p> <p>平成 12 年 公安調査庁調査第二部</p> <p>平成 15 年 他省庁に出向</p> <p>平成 18 年 公安調査庁調査第二部</p> <p>平成 23 年 北海道公安調査局調査第一部</p> <p>平成 25 年 公安調査庁調査第一部</p> <p>平成 30 年 四国公安調査局調査第二部</p> <p>令和 2 年 公安調査庁調査第二部 (課長)</p> <p>令和 5 年 公安調査庁総務部人事課 (課長)</p>	<p>平成 8 年 入庁 (1種) 公安調査庁調査第二部</p> <p>平成 9 年 九州公安調査局調査第一部</p> <p>平成 11 年 法務省本省に出向</p> <p>平成 13 年 公安調査庁総務部</p> <p>平成 14 年 公安調査庁調査第二部</p> <p>平成 16 年 他省庁に出向</p> <p>平成 19 年 公安調査庁調査第二部</p> <p>平成 22 年 公安調査庁総務部</p> <p>平成 24 年 公安調査庁調査第一部</p> <p>平成 27 年 公安調査庁調査第二部</p> <p>平成 29 年 公安調査庁総務部</p> <p>令和 5 年 公安調査庁調査第一部 (課長)</p>	<p>平成 3 年 入庁 (1種) 神奈川公安調査事務所</p> <p>平成 5 年 公安調査庁調査第一部</p> <p>平成 8 年 公安調査庁調査第二部</p> <p>平成 14 年 他省庁に出向</p> <p>平成 17 年 公安調査庁総務部人事課</p> <p>平成 19 年 公安調査庁研修所</p> <p>平成 20 年 公安調査庁調査第一部</p> <p>平成 24 年 内閣官房に出向</p> <p>平成 26 年 公安調査庁調査第二部</p> <p>平成 27 年 金沢公安調査事務所</p> <p>平成 30 年 那覇公安調査事務所</p> <p>令和 3 年 横浜公安調査事務所</p> <p>令和 5 年 公安調査庁調査第二部 (課長)</p> <p>令和 7 年 公安調査庁研修所長</p>

公安調査庁の魅力と 職員個人の今後の目標について

— 当庁の志望動機を教えてください。

松田 まずは、規模が大きくてお金に代えられない価値を生み出したり、日本の国益にかなうことに従事したいという思いから国家公務員を目指しました。その中で公安調査庁を目指した理由は、人生経験を生かして人間関係を築くヒューミントを使って公共の安全に関する情報を集め、その情報を分析するという他の組織ではなかなかできない経験ができる点です。

佐々木 私は、観光関係の民間企業に勤めていた経験があります。民間企業への就職活動当時は、人を楽しませたいという思いから就職活動を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する状況下において困っている人と直接関わる中で、困っている人を助ける仕事がしたいと考えるようになり、そうした人々を助けることができる仕事の一つとして、治安関係の官庁を志しました。中でも当庁を志望したのは、テロなどに巻き込まれて苦しむ人を生まないといった未然防止が可能という、当庁独自のものを武器にして国民の安心・安全を守る点に引かれたことによります。

— 情報収集・分析業務を実際に行ってみて感じた難しさ、やりがい、面白さなどはありますか。

松田 私は、本庁で主に国内関係の分析業務に携わっていて、業務の中で、現場に対して調査指示を出すことがあります。自分の調査指示一つで現場の情報収集の方針が決まることもあり、影響力が大きいことから、重大な責任を負っているという意識と共にやりがいも感じています。

また、分析の結果として資料を作成したとしても、情報の伝え方次第では受け手側に大きな誤解を与えかねず、そこで生まれた誤解が、組織の信用の低下につながることもありません。受け手側に誤解を与えないよう、事実と分析結果の部分をしっかりと区別して資料を作成するよう心掛けていますが、書き分けが大変難しいと感じます。間接的にでも公共の安全の確保に寄与していると実感できる点に大きなやりがいを感じています。

下山 私は、現場において主に情報収集に携わっており、その中で、情報収集の方法に一律の正解がないという点に難しさを感じています。自分で情報収集に至るまでのプランを作成するのですが、プランどおりにいかないこともありますし、そもそも様々な事情でそのプランが採用されないこともあります。そこで、実行可能なプランを考えるための「考える力」というものが必要になると感じていて、そこに難しさを感じます。一方で、自分の人生経験をフル動員して、ああでもないこうでもない、上司やラインの先輩方と話し合うのは楽しいですし、大きなやりがいを感じます。そのプランが仮にうまくいかなかったとしても、職場内に失敗を次に生かそうとする雰囲気があるので、そういった点で、将来の自分のためになる、すごく重要な経験だなと思っています。

— 当庁の魅力は何だと思いますか。

佐々木 特に魅力を感じる点は二つあります。一つ目は、一年目から様々なことを任せられる点です。以前、民間企業にいた時も、一年目なりに様々なことに携わらせてもらえましたが、当庁の方が、より幅広いことに携わらせてもらえていることを実感しています。例えば、以前の職場では、協議に出席した際、新人のうちはメモを取ったり議事録をまとめることしかさせてもらえませんでした。当庁ですと、協議の場で意見を聞いてもらえたりと、一人の参加者として出席させてもらえる点で、任せられる範囲が大きいと感じています。二つ目は、自分の得意なことを業務にいかすことができ、それが、みずからの業務の範囲を広げることにつながっていく点です。

特にこれを実感したのは、上司が、私が英語が得意である点に着目して、海外と関係する業務や英語を使った資料作成を任せてもらった時のことです。このように、それぞれの得意分野を業務につなげていける点が当庁の魅力だと感じています。

下山 私が思う当庁の魅力は三つあります。一つ目が、情報収集業務においては、執務室の外で仕事ができる点です。外に出て実際に自分の目で見たり、様々な個性を持つ人と関わっていく中で、視野や器が広がり、自分自身の成長につながる点は当庁ならではの点だと思います。

二つ目が、今までの人生経験を生かせるという点です。私は、学生時代、華道部に所属していました。業務の中で会う人と華道の話ができて仲を深めることにつながるなど、一見業務と関係がないような経験も、直接仕事につながることも多いです。

三つ目は、若手職員であっても裁量が大きい点です。自分自身で目標を決めて、それを実現するためのプランを立てて、そのプランを形にすることができます。

野山 仕事とプライベートをはっきり分けて考える職員が多いので、自分自身もずるずる残業しないでプライベートの時間を充実させることができる点に魅力を感じます。プライベートの時間を有効活用して、自己研さんの一つとして、例えば英語の勉強するなど、充実した時間の使い方もできています。

— 憧れの職員はいますか。

野山 所属する部署の課長です。課長は、職員の前で話すときなどに、「君たちが何かミスしても私が責任を取る。管理職の私が君たちの親みたいなので、全部の責任を負うから自由にやりなさい」といつも言っていて、職員の背中を押してくれる方です。私もそういった肝の据わった人になりたいなと思います。

— どのような職員を目指していますか。

松田 だいぶ先の話ですが、最終的な目標で言うと、当庁の組織としての在り方や方向性、国の中での立ち位置を考えられるような職員になりたいと思います。

下山 私は、その時々々のニーズや変化に合わせた情報を提供できるよう、情勢を敏感に察知して、昔からあるものを大切にしつつも、新しいものをどんどん取り入れて調査方法を考えたり、新しい角度で見た情報を提示したりできるような調査官になりたいと思っています。

	松田調査官 令和5年入庁(総合職) 公安調査庁調査第一部 公安調査官 男性		佐々木調査官 令和5年入庁(総合職) 公安調査庁調査第二部 公安調査官 女性
	下山調査官 令和5年入庁(一般職) 関東公安調査局調査第一部 公安調査官 女性		野山調査官 令和5年入庁(一般職) 関東公安調査局調査第二部 公安調査官 男性

研修



育成ポリシー

公安調査庁では、職員の実務能力・専門性の向上を図るため、様々な研修を実施しています。

- 採用前に必要な知識・技能・資格などはありません。**
所管法令や調査対象団体の組織・沿革といった知識、調査を行うための技能など、公安調査官として必要な能力が習得できるよう、新規採用者に対し採用後相当期間かけて丁寧な研修を行います。
- 専門性を向上させる研修も用意しています。**
公安調査局等の調査担当者や本庁の分析担当者など、専門性の高い知識や技能が必要とされる業務に従事している職員を対象に、調査技能や分析能力の向上に資する研修を実施しています。
- 必要な語学力も身に付けることができます。**
調査業務や分析業務などにおいて外国語能力が必要とされる職員を対象に、様々な言語の研修を実施しているほか、民間の語学学校への委託研修も行っています。

採用情報

公安調査庁では、原則として人事院が実施する国家公務員採用試験の合格者から、人物本位で職員を採用しています。過去5年間の採用実績は表のとおりです。

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
総合職(院卒)		3(1)	1(0)	1(1)	1(0)
行政		2(0)		1(1)	1(0)
人間科学		1(1)			
工学			1(0)		
総合職(大卒)	8(2)	4(1)	4(2)	2(1)	4(3)
法律	3(0)		3(1)	2(1)	3(3)
経済	1(1)				
政治・国際・人文*	2(0)	3(1)			1(0)
人間科学			1(1)		
教養	2(1)	1(0)			
工学					
一般職(大卒)	58(18)	57(22)	45(21)	26(9)	37(11)
行政	57(18)	56(22)	45(21)	26(9)	37(11)
デジタル・電気・電子	1(0)	1(0)			
一般職(高卒)	4(1)	12(7)	9(4)		10(5)
事務	4(1)	12(7)	9(4)		10(5)

*令和6年度までは「政治・国際」区分。

Q&A

Q
どのような人物を求めていますか。

A これまでに培ってきた能力・素質を、公共の安全を守るために役立てたいという熱意あふれた人材を求めています。公安調査庁が最大の強みとする「**ヒューミント(人的情報収集)**」は、「一律の答えのない業務」であることから、必要な能力・素質はあえて限定しませんが、例えば(1)様々な人や物事に興味を持ち、(2)未経験の状況においても主体的に考えて行動し、(3)仕事相手や担当業務に対して責任感を持って臨む人物は、活躍できると考えています。

Q
入庁前に必要な資格等がありますか。

A 入庁に際して特別に必要な資格等はありません。実際の調査業務や分析業務等で必要な知識や技術は入庁後の研修等で修得できます。とはいえ、入庁後も自主的に勉強し、業務にいかせる資格を取得する先輩もいますので、**様々な知識や技術を身に付けようとする熱意のある方**は大歓迎です！



Q
勤務地と異動について教えてください。

A 「情報収集のプロ」として育成・処遇される一般職員は、全国の各公安調査局で採用され、**原則として採用された公安調査局とその管内に所在する事務所に勤務**します。また、幅広い知識と経験を積むため、本庁、その他の公安調査局や事務所、他省庁などで勤務する場合もあるほか、能力・適性に応じて「**情報分析のプロ**」として育成・処遇される場合もあります。
総合職員は、本庁で採用された後、**2～3年のサイクルで本庁や公安調査局などで情報収集・情報分析・企画調整・管理等の様々な職務を経験**するほか、他省庁への出向等も経験します。幅広い経験を積み、知見を広げることで、我が国の情報機能の強化に寄与することのできる人材として育成・処遇されます。



Q
昇進について教えてください。

A 公安調査官として採用された後、主任調査官、上席調査官、統括調査官等を経て首席調査官(管理職)へと昇進します。当庁では採用年次や合格した採用試験の種類等にとらわれず、能力や実績に基づいた人事運用を行っており、**本人の熱意と努力次第で上位ポストに昇進することが可能です。**



Q
給与について教えてください。

A 公安調査官として採用された職員には、公安職俸給表(二)が適用されるため、一般的行政事務を行っている国家公務員に適用される行政職俸給表(一)より**高い水準に給与が設定されています**。また、大学院を修了された方や民間企業等で勤務した経験をお持ちの方は、一定の基準により初任給が加算されます。

Q
休日出勤や超過勤務はありますか。

A 公安調査官は、面談相手からの情報入手や団体の活動状況の調査など、相手に合わせて業務を行う必要がある現場調査や、関係機関への情報貢献のため迅速に資料を作成する必要がある分析業務に従事するため、休日に勤務することもあります。この場合には勤務日を代休に代えるなどして、**きちんと休暇が取得できるようにしています**。
なお、休日は、土曜日・日曜日・祝日・年末年始以外にも、有給休暇として、年間20日間(4月採用者は15日間)の年次休暇(20日間まで翌年に繰り越すことができます)のほか、特別休暇(夏季・結婚・忌引など)などがあります。



Q
テレワークはありますか。

A 育児・介護・障がいなど様々な事情でテレワークを積極的に活用している職員はいます。本庁ではテレワーク用の端末が整備されており、**個人のワークライフバランスに応じた働き方が可能です**。
一方で、調査業務で人に話を聞きに行ったり、分析業務で関係機関にレクチャーを行ったりといった人と直接会う場面もあるのは事実です。調査官の五官を通じて得られる情報は当庁の武器であり、テレワークに代えることが難しい部分だと考えています。

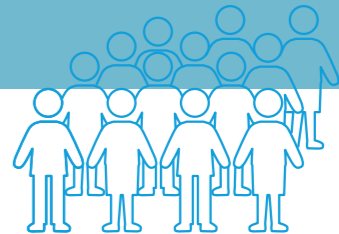
Q
住宅について教えてください。

A 国家公務員宿舎に入居することも可能です。



Q
職員の中で女性はどのくらいいますか。

A 職員全体に占める女性比率は約2割です。なお、新規採用者の女性比率は年々大きくなっており、**近年は40%前後で推移しています**。女性職員だから業務の幅が限定されるということはありません。結婚や出産をした後も、第一線の調査官・分析官として活躍している女性職員は数多くいます。



Q
語学力は必要ですか。

A 語学力のある方は大歓迎ですが、採用の要件とはしていません。多くの先輩が自己啓発に努めているほか、業務で必要とされる場合であっても、様々な研修プログラムを用意していますので、**語学力に自信がない方でも、向上心さえあれば問題ありません**。



Q
調査に危険はありますか。

A 調査にあたっては、上司と綿密な打ち合わせを行った上で、チームで行動するので、**危険が及ぶことは極めて少ない**と言えます。
また、上司や先輩のアドバイス・研修を受けつつ、経験を積み重ねることによって、危険性はより一層少なくなっていくます。

